

本の自序に書いてある文字からも感ぜられることですが、その生真面目なところを持つて来て、東京大学の先生である本位田といふ人から、~~この~~自らの祖先の事柄と此の小説の中へ書いてある事柄と違ふといふことを直せられた。それと對してこの自序の中に、~~従来~~従来の大衆文學型から歴史性へ大膽な一歩を踏み入れた足もと「の怪我である」と書いてある。さうしてその後を承けて、「作中人物と本位田氏の祖とはべつちであることとを、

文 6号4段

六段 加2

小見出し二行  
十見出し六行

三年たるとは三つふなると申しますが、この作者は急ぐ十も十五も年を取ったやうな思はれる。年を取るといふことは、老朽といふこともあり、老熟といふこともあるのである。老朽といふこと、老熟といふこと、思はない。たゞ大變な真面目な思はれる。この急ぐ年を取ったやうに思はれる。この

吉川英治氏の官本武蔵

三田村

歴史性  
の疑問

魚

二行  
三行